

Vol. 166 君津市民ふれあい祭りを終えて  
～女性会 努力賞をいただく！～ (平成 21 年 8 月 25 日)

今年の市民ふれあい祭りは1日目の新日鐵祭り、亀山湖の花火大会、2日目の青年部が中心となった楽しい行事、夜はいやさか踊りと心配された天候も暑さも吹き飛ばす風にも恵まれ、祭りが大成功で終わることができました。

ご協力に改めて深く御礼を申し上げます。

また、この大成功の陰には女性会、青年部の大変なご協力、支えがあったことを書き加えて、お骨折りとご苦労様でしたと感謝を申し上げます。

女性会はこの所踊りの入賞を逃してきたので、今年こそは優勝をと目指しての参加でありました。坂本禮子会長を連長に凡そ50名余りの参加を頂き、お揃いのピンクのはっぴに熱気を感じました。私も指定されたJJサニー千葉連から抜け出して、女性会のプラカードを掲げて先頭に立ちました。両手で高く掲げるプラカードは思ったよりは重く大変な役目でありました。そんな私の後ろ姿に女性会から「持っているだけでは駄目！踊りなさい！もっと大きな声を出しなさい！」とハッパをかけられました。祭りが終わって10日余りまだまだ筋肉痛がとれません…

こうした意気込みが認められて、狙った優勝はできませんでしたが努力賞を頂くことができました。女性会は口々に「年々体力的にもきつくなって来ているけれど、来年こそは商人女の根性を見せて、絶対優勝を狙おう！」と言われておりました。

来夏は是非大勢のご参加を今から願っております。

「君津市民ふれあい祭り」も来年は15周年、一つの節目ですから、市内には昔からすばらしい伝統歴史を持つ神輿がたくさんあります。この会場に勢揃いして頂き市民にお披露していただくと言う祭りはどうですか？」と鈴木市長さんが話しかけてくれました。私はすかさず大賛成ですと答え、隣席の藤井君津製鐵所長に「藤井さんには小倉の祇園太鼓をご招待する役目をお願いします。そうすれば、日本中のテレビが飛びついてきますよ」と私の突然の話に、藤井所長は目をパチクリさせておられました。

この祭りで気づいた事いくつか…

①浴衣のススメ

日本の夏祭りは浴衣姿が良く似合います。

②踊りの型をもう少し…

将来私は不器用のせいかわび入りでもすぐ踊れる型はないかと思えます。

炭坑節などに比べると少し難しいと思いました。

実は十年ほど前、木更津から型を変えたいと相談があり「風の盆、八尾」を紹介したことがあります。

「風の盆」の踊りは、「稲の種をまき、苗を植え、稲を刈り、稲架にかける仕草だ」と高橋治が小説「風の盆恋歌」に書いてあり、八尾には友人が何人かおったからであります。

③ふれあい祭りの踊りが終わって、みなさんが帰った後、市と会議所の職員、女性会、翌朝は市長さんも加わり同じ人達が清掃をしております。

楽しかった祭り、すばらしかった夏の思い出は「跡を濁さず」でありたいものです。清掃にも是非ご参加ください。

祭りとは旧交を温め、お互いの労に感謝して知り合いを広め、絆を太く多くしていく素晴らしい役目があり、まちを生き生きさせるものでありますから…

